

2025年度

| 学年             | 教科   | 科目 | コース  | 単位 | 担当者   |
|----------------|--|----|------|----|-------|
| 2              | 保健体育   | 体育 | 進学理系 | 3  | 体育科教員 |
| 教科書            | 現代高等保健体育   |    |      |    |       |
| 副教材            |  |    |      |    |       |
| 評価基準           | <b>観点① 知識・技能</b><br>・授業内で学んだ技能を実技テストにて評価   |    |      |    |       |
|                | <b>観点② 思考力・判断力・表現力</b><br>・技能の行い方や組合せ方について、自己や仲間と良い点や修正点を指摘し合いながら互いに新たな課題を発見しているとともに技能を表現しようとしている  |    |      |    |       |
|                | <b>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</b><br>・技術練習やゲームの経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、他者と協調性を大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。課題を提示し評価する。   |    |      |    |       |
| 考査             | 実技テストを授業内で行う   |    |      |    |       |
| 評価             | 観点①60点、観点②20点、観点③20点=100点満点で評価   |    |      |    |       |
| テスト・評価の内訳      | <b>観点①</b> 体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点の評価をつける<br>※1学期は新体力テストが加わる<br>※3学期はシャトルランおよびマラソン大会、時間走で評価   |    |      |    |       |
|                | <b>観点②</b> 観察及びレポートにて評価をする<br>体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点の評価をつける  |    |      |    |       |
|                | <b>観点③</b> 観察及びレポートにて評価をする<br>体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点の評価をつける  |    |      |    |       |
| 授業のねらい・進め方・注意点 | 体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。また、授業内での安全確保（感染症対策も含む）にも留意し、生徒の健全な授業環境の確保に努める。 |    |      |    |       |
| 図書資料の活用        | 必要があれば授業内で提示する。  |    |      |    |       |

授業の計画

| 学期 | 月  | 教材       | 内容  |
|----|----|----------|---|
| 1  | 4  | 現代高等保健体育 | ○オリエンテーション(新学期・実技指導・内)<br>○新体力テスト<br><br>【グラウンド種目】ラグビーフットボール<br>・基本動作の習得～応用、ゲーム<br>※実技テストも行う。 |
|    | 5  |          | 【体育館種目】バレーボール<br>・基本動作の習得～応用、ゲーム<br>※実技テストも行う。  |
|    | 6  |          | 【ダンス】<br>・内容説明、基礎動作・振り付け指導<br>※実技テストも行う。<br><br>【柔道】<br>・実技指導、内容説明、受身・寝技<br>※実技テストも行う。        |
| 2  | 7  | 現代高等保健体育 |   |
|    | 9  |          | 【グラウンド種目】サッカー<br>・基本動作の習得～応用、ゲーム<br>※実技テストも行う。  |
|    | 10 |          | 【体育館種目】バスケットボール<br>・基本動作の習得～応用、ゲーム<br>※実技テストも行う。<br><br>【ダンス】<br>・創作ダンス、振り付け指導<br>※実技テストも行う。  |
| 3  | 11 | 現代高等保健体育 | 【柔道】<br>・実技指導、立技<br>※実技テストも行う。  |
|    | 12 |          |   |
| 3  | 1  | 現代高等保健体育 | 【グラウンド・体育館・柔道】持久走<br><br>【ダンス】<br>・3年次体育祭ダンス発表振り付け指導<br>※実技テストも行う。                            |
|    | 2  |          |   |
|    | 3  |          |   |

2025年度

| 学年             | 教科   | 科目 | コース  | 単位 | 担当者            |
|----------------|--|----|------|----|----------------|
| 2              | 保健体育   | 保健 | 進学理系 | 1  | 松岡 横山 佐藤 村山 城戸 |
| 教科書            | 現代高等保健体育（大修館）  |    |      |    |                |
| 副教材            | 現代高等保健体育ノート（大修館）   |    |      |    |                |
| 評価基準           | 観点① 知識・技能<br>教科書・副教材を正確に理解し、答えることができる。   |    |      |    |                |
|                | 観点② 思考力・判断力・表現力<br>観点①で習得したことを元にグループ内活動やその他取り組みにおいて、生かすことができる。   |    |      |    |                |
|                | 観点③ 主体的に学習に取り組む態度<br>授業内活動において積極的に発言することができる。  |    |      |    |                |
| 考査             | 1学期期末・2学期期末・学年末の計3回実施<br>上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。  |    |      |    |                |
| 評価             | 各学期、100点満点で表記する。<br>1・2学期: 観点①期末50x80% + 観点②期末50x80% + 観点③ 20<br>3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20   |    |      |    |                |
| テスト・評価の内訳      | 観点① 授業内で取り組んだ基本的内容を基にした問題  |    |      |    |                |
|                | 観点② 授業内で活用した統計データやグラフから読み取る問題  |    |      |    |                |
|                | 観点③ ノートの取り組み及び提出状況（その他プリント含）<br>レポート提出   |    |      |    |                |
| 授業のねらい・進め方・注意点 | ○環境問題において知識理解を深めるとともに今後の生活の中で学んだことを理解して日々の生活に生かせるようにする。<br>○教科書・ノートを中心に授業を行い、プリントやビデオ等の教材も使用する。授業内容によって自宅学習をすることもある。<br>○テストについては各学期末に行う。<br>○各学期にノートの確認を行う。 |    |      |    |                |
| 図書資料の活用        | 必要があれば授業内で提示する。  |    |      |    |                |

授業の計画

| 学期 | 月  | 教材       | 内容  |
|----|----|----------|---|
| 1  | 4  | 現代高等保健体育 | 3単元<br>01.ライフステージと健康<br>02.思春期と健康<br>03.性意識と性行動の選択<br>04.妊娠・出産と健康<br>05.避妊法と人工妊娠中絶<br>06.結婚生活と健康          |
|    | 5  |          |   |
|    | 6  |          |   |
| 2  | 7  | 現代高等保健体育 | 4単元<br>01.大気汚染と健康<br>02.水質汚濁・土壌汚染と健康<br>03.環境と健康にかかわる対策<br>04.ごみの処理と上下水道の整備<br>05.食品の安全性<br>06.食品衛生に関わる活動 |
|    | 9  |          |   |
|    | 10 |          |   |
| 3  | 11 | 現代高等保健体育 | 2単元<br>01.事故の現状と発生要因<br>02.安全な社会の形成<br>03.交通における安全<br>04.応急手当の意義とその基本<br>05.日常的な応急手当<br>06.心肺蘇生法          |
|    | 12 |          |   |
|    | 1  |          |   |
| 3  | 2  | 現代高等保健体育 |   |
|    | 3  |          |   |

2025年度

| 学年                 | 教科  | 科目   | コース | 単位 | 担当者 |
|--------------------|---|------|-----|----|-----|
| 2                  | 国語  | 論理国語 | 進学  | 2  | 岩野  |
| 教科書                | 『論理国語』(数研出版)  |      |     |    |     |
| 副教材                | 『論理国語』 準拠ワーク(数研出版)<br>『TOP2500 三訂版』(いいずな書店) 『現代文単語 改訂版』(いいずな書店)   |      |     |    |     |
| 評価基準               | <p>観点① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字を正しく書け、語彙を適切に使えるようになる。(知識)</li> <li>文学史の中で作者の果たした役割を理解する。(知識)</li> <li>文章の構成や論理の運びを正しく理解できる。(技能)</li> </ul>   |      |     |    |     |
|                    | <p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章の内容を重要度の軽重を含めて理解できるようになる。(思考力)</li> <li>多くの選択肢から正答を選べるようになる。問いに的確に答えを出せる。(判断力)</li> <li>音声や文字を通じて他者に自ら理解したことを簡潔に伝えられるようになる。(表現力)</li> </ul>   |      |     |    |     |
|                    | <p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読書を計画的に進める。(計画性)</li> <li>他者と協働する事で、課題の解決を図ろうとする。(協調性)</li> <li>協働の末、自力で作成した成果物を期限内に提出する。(自律性)</li> </ul>   |      |     |    |     |
| 考査・評価              | 1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施<br>上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。   |      |     |    |     |
| 方法                 | 各学期、100点満点で表記する。<br>1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20<br>3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20  |      |     |    |     |
| 授業のねらい・進め方・学習アドバイス | <p>【ねらい】 理系選択は「論理国語」2単位のみが国語の教科となる。授業の柱は大きく二つある。一つ目は、教科名どおり論理的思考に基づいて文章を読み解く力を養うことである。二つ目は、社会に出てから当然知っているものとして扱われるような近現代の代表的な文学作品に触れ、人間の思考の傾向や感情の奥深さに触れることである。これら二つのねらいを統合することで、現代の評論は近代の思考の葛藤を土台としていることを理解してもらいたい。そして、先人の考えを蓄積していくことは、自らの考えの幅を広げ、相手を受け入れる懐の深さにつながっていく、つまり生きる力を養うことであることを最終的には感じ取ってもらいたい。</p> <p>【進め方】 右の「授業の計画」に挙げた教材は、進度によっては削る場合がある。副教材に基づいた小テストは随時実施する。</p> |      |     |    |     |
| 図書資料の活用            |   |      |     |    |     |

授業の計画

| 学期 | 月  | 教材              | 内容              |
|----|----|-----------------|-----------------|
| 1  | 4  | ◎手の変幻           | ◎科学・技術の歴史の中での社会 |
|    | 5  | ...中間考...       |                 |
|    | 6  | ◎科学・技術の歴史の中での社会 |                 |
| 2  | 7  | ...期末考査...      | ◎「内的成長」社会へ      |
|    | 9  | ◎「内的成長」社会へ      |                 |
|    | 10 | ...中間考査...      |                 |
| 3  | 11 | ◎未来世代への責任       | ◎消費されるスポーツ      |
|    | 12 | ...期末考査...      |                 |
|    | 1  | ◎消費されるスポーツ      |                 |
| 3  | 2  | ◎消費されるスポーツ      | ◎消費されるスポーツ      |
|    | 3  | ◎消費されるスポーツ      |                 |
|    | 3  | ...学年末考査...     |                 |

2025年度

| 学年                 | 教科   | 科目   | コース  | 単位 | 担当者 |
|--------------------|--|------|------|----|-----|
| 2                  | 家庭科  | 家庭基礎 | 進学文系 | 2  | 矢部  |
| 教科書                | 大修館書店「Creative Living『家庭基礎』で生活をつくろう」   |      |      |    |     |
| 副教材                | 教育図書「家庭科55デジタル+資料集+食品図鑑+デジタルコンテンツ」   |      |      |    |     |
| 評価基準               | <b>観点① 知識・技能</b><br>人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活，衣食住などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけていること。  |      |      |    |     |
|                    | <b>観点② 思考力・判断力・表現力</b><br>人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活などについて課題を見だし，表現を工夫するなど，生活を創造する能力を身につけていること。   |      |      |    |     |
|                    | <b>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</b><br>人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活などについて関心を持ちその充実向上を目指して主体的に取り組む態度を身につけている。   |      |      |    |     |
|                    |  |      |      |    |     |
| 考査・評価方法            | 1学期期末・2学期期末・学年末の計3回実施<br>観点①②共に40点分（内各10点は実技点）、観点③20点の100点満点のテストを実施する。<br>各学期、100点満点で表記する。<br>1・2学期: (観点① 50+観点② 50)x80% + 観点③ 20<br>3学期: (観点① 50+観点② 50)x80% + 観点③ 20 実技課題は学期によって異なるものが出題される。 |      |      |    |     |
| 授業のねらい・進め方・学習アドバイス | 家庭科の授業では、教科書や資料を読んで「知識・技能」を得るだけでなく、その「知識技能」が実際に生活でいかせるよう、実習や実験によって体験したり、他者との話し合いによって考えを共有し合い、自分で問題を見つけ調べたりすることで、解決していく力をつけることをねらいとする。  |      |      |    |     |
| 図書資料の活用            | 郷土料理レポート作成、ロールプレイングで悪質商法をシミュレーションする際に図書室を活用予定  |      |      |    |     |

授業の計画

| 学期 | 月 | 教材  | 内容   |
|----|---|---|--|
| 1  |   | <生活のマネジメント><br>1 生涯，発達し続ける<br>2 青年期の課題と自立<br>3 ひとり暮らし<br>4 家族について<br>5 子供の世界を知る<br>親になること | 生涯発達の考えかたに立ち，各ライフステージごとの特徴と課題について理解する。<br>自分の生活と自分自身について自己理解を深める。<br>住宅情報誌を利用し初期費用の算出やアルバイトについて考える。<br>家族と世帯について理解し，現代の家族の特徴と社会とのかかわりについて理解する。<br>子どもの時期は人としての土台をつくる重要な時期であることを理解する。<br>おやつ実習および絵本作り |
| 2  |   | <食生活のマネジメント><br>1 体と心を満たす食事<br>2 調理のワザを身につける<br>3 郷土食について<br>4 人生100年時代の高齢期               | 食事の持つ意味を知る。<br>現在の食生活の現状を理解し，どのようにすれば健康的な食生活が送れるのか考える。<br>調理を科学的に理解する態度を養う。<br>沖縄修学旅行にむけての事前学習<br>調理実習および野菜の切り方テスト<br>人間の発達の完成期とともに現代社会の課題でもある高齢期への関心を高める。   |
| 3  |   | <消費者教育のマネジメント><br>1 18歳で変わる消費生活<br>2 進むキャッシュレス化   | 消費にかかわる契約について理解する。<br>契約を交わす際の注意点，発生する法的責任，契約に関するトラブルについて知る。<br>キャッシュレス化にともない，みえにくいお金の動きを的確にとらえられるような意識的な家計管理が必要であることを理解する。  |

2025年度

| 学年                 | 教科   | 科目   | コース  | 単位 | 担当者     |
|--------------------|--|------|------|----|---------|
| 2                  | 地歴公民   | 地理総合 | 進学理系 | 2  | 佐々木、野々村 |
| 教科書                | 『高校生の地理総合』（帝国書院）、『新詳高等地図』（帝国書院）  |      |      |    |         |
| 副教材                | 『高校生の地理総合ノート』（帝国書院）  |      |      |    |         |
| 評価基準               | <b>観点① 知識・技能</b><br>基本的な知識を身に付け、その役割、有用性を理解しているか。地図、資料などから現代世界の姿を読み取る技能を身に付けているか。  |      |      |    |         |
|                    | <b>観点② 思考力・判断力・表現力</b><br>世界の国々はどのように結びついているのか、世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかを、地図を通して、多面的・多角的に考察し、表現しているか。   |      |      |    |         |
|                    | <b>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</b><br>世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしているか。生活の中で必要な防災・減災に向けた備えについて、主体的に追求し課題を見出しているか。   |      |      |    |         |
|                    | 1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施<br>上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。  |      |      |    |         |
|                    | 各学期、100点満点で表記する。<br>1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20<br>3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20   |      |      |    |         |
| 授業のねらい・進め方・学習アドバイス | (ねらい)世界各地の生活文化の多様性について、自然環境や社会環境とのかかわりに着目しながら考察し、国際理解を深めていく。また、地域的な視点から災害と防災についての課題を考察し、安心できる社会を構築するためにどう行動するかを考えていく。<br>(注意点)知識の習得にとどまるのではなく、様々な地球的課題の解決に向けて、その知識をどのように活かしていくのか、また、持続可能な社会の構築にどのような知識を身に付けていたらよいかを考えながら、授業を受けてください。 |      |      |    |         |
| 図書資料の活用            | 授業中に図書資料を紹介する。<br>新聞を読み、レポートを提出する課題を課す。  |      |      |    |         |

授業の計画

| 学期 | 月   | 教材                    | 内容                                     |
|----|-----|-----------------------|--|
| 1  | 4月  | 世界の地形と人々の生活           | 生活と地形のかかわり                             |
|    | 5月  | 現代世界の国家と領域            | 河川・海岸の地形<br>氷河・カルスト地形・乾燥地形<br>国家の領域と国境 |
|    | 6月  | 世界の気候と人々の生活           | 生活と気候のかかわり<br>雨温図・景観写真<br>各気候帯         |
|    | 7月  | 世界の産業と人々の生活           | 生活を支える農業の発展<br>生活を支える工業の発展             |
|    |     |                       | 期末考査                                   |
| 2  | 9月  | 地図から見る国内や国家間の結びつき     | 国際機関・貿易・交通通信・観光                        |
|    | 10月 | 多様な生活文化と地理的環境<br>東アジア | 経済発展による生活文化の変化                         |
|    | 11月 | ヨーロッパ<br>地球的課題と国際協力   | 伝統の継承と生活文化のかかわり<br>人口問題<br>食糧問題        |
|    | 12月 | 期末考査                  |  |
| 3  | 1月  | 自然環境と防災               | 日本の自然環境<br>地震津波や火山活動による災害と防災           |
|    | 2月  |                       | 気象災害と防災<br>自然災害への備え                    |
|    | 3月  | 学年末考査                 |  |

2025年度

| 学年                 | 教科   | 科目  | コース       | 単位 | 担当者       |
|--------------------|--|-----|-----------|----|-----------|
| 2                  | 数学   | 数学B | 特進理系・特進文系 | 4  | 3組花澤 4組渡辺 |
| 教科書                | 最新数学Bおよび最新数学C  |     |           |    |           |
| 副教材                | 3ROUND数学Bおよび数学C<br>*参考書としては旺文社「総合的研究 数学II+B」を推奨  |     |           |    |           |
| 評価基準               | 観点① 知識・技能<br><br>問題を解くための最低限の知識（基本的数列・シグマ記号の扱い・数学的帰納法の原理・漸化式・ベクトルの加減実数倍・基底による表示の一意性・内積etc）をその原理とともに理解し、反復によって定着させ、適切なタイミングでそれらを利用できる。  |     |           |    |           |
|                    | 観点② 思考力・判断力・表現力<br><br>①に挙げたような最低限の知識が拠り所とする数学的原理について理解し、原理からそれらを導く力。数少ない原理から教科書に記載されているような最低限の知識を導く過程を学ぶことでそれらを体得し、未知の問題にその過程を応用する力。  |     |           |    |           |
|                    | 観点③ 主体的に学習に取り組む態度<br><br>①②で見られる最低限の知識やその基盤となる数学的原理、またそれらを繋ぐための考え方・論理の流れを理解するために自分自身で具体例を挙げようとする態度。未知の問題に対して自身が使えるような知識を列挙し、解決を試みようとする態度。  |     |           |    |           |
|                    | 1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施<br>上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。<br>各学期、100点満点で表記する。<br>1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20<br>3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20  |     |           |    |           |
| 授業のねらい・進め方・学習アドバイス | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「なぜその式変形をするのか?」「なぜその定理・公式があるのか?」等を常に考えましょう。</li> <li>・理解だけでは不十分で、自由自在に知識を使える必要があります。そのためには「イメージで理解する」「すでにわかっている知識と新しい知識を連関させる」「自分で徹底的に反復する」ことが重要です。イメージや知識の連関は授業で補えますが、反復のためには自学が必要です。</li> <li>・チャートはおすすめしません。「この問題はこのパターンで解く」を集めることは数学の学習ではありません。旺文社の「総合的研究」で事項の裏にある原理や論理を追求してください。</li> </ul> |     |           |    |           |
| 図書資料の活用            | ルネ・ドーマル「類推の山」 論理による類推とはなにかについて、鮮明なイメージを与えてくれます。  |     |           |    |           |

授業の計画

| 学期 | 月      | 教材                          | 内容  |
|----|--------|-----------------------------|---|
| 1  | 4      | 教科書<br>参考書<br>ノート           | 数列とは<br>基本的数列の扱い<br>シグマ記号   |
|    | 5      | 3ROUND                      | 数列を式で説明するのが漸化式<br>数学的帰納法  |
|    | 6<br>7 |                             |   |
| 2  |        | 教科書<br>参考書<br>ノート<br>3ROUND | ベクトルを点の移動としてイメージする<br>ベクトルの和・差<br>ベクトルの拡大縮小=実数倍<br>ベクトルを具体的に説明したものが成分表示<br>基本的な移動の方向=基底<br>平面の基底は2つで良い<br>内積の計算<br>ベクトル方程式は軌跡のベクトル版 |
|    |        |                             |   |
|    |        |                             |   |
| 3  |        | 教科書<br>参考書<br>ノート<br>3ROUND | 空間ベクトルも点の移動<br>成分表示は3つになる<br>基底も3つ必要<br>空間図形の方程式を得るのはベクトルが便利  |

2025年度

| 学年                     | 教科   | 科目    | コース  | 単位 | 担当者 |
|------------------------|--|-------|------|----|-----|
| 2                      | 数学   | 数学選択Ⅰ | 進学理系 | 2  | 木村  |
| 教科書                    | 適宜プリントを用意します。  |       |      |    |     |
| 副教材                    | 1年次に使用した数学IAの教科書・問題集を用意してください。   |       |      |    |     |
| 評価基準                   | <p>観点① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定義の理解、公式を適用して基本問題が解ける。</li> </ul>   |       |      |    |     |
|                        | <p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観点①に該当する基本問題を用いて、応用問題が解ける。</li> </ul>   |       |      |    |     |
|                        | <p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学のよさを認識し数学を活用しようとする、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断する</li> <li>・問題解決の過程を振り返り考察を深め、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。</li> </ul>  |       |      |    |     |
| <p>考査・評価</p> <p>方法</p> | <p>1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施<br/>上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。</p> <p>各学期、100点満点で表記する。</p> <p>1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20<br/>3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20</p> |       |      |    |     |
| 授業のねらい・進め方・学習アドバイス     | <p>数学IAの復習を行います。重要なことは「概念をきちんと理解すること」です。1年次は概念の理解を放棄し「問題が解ければよい」と考えていた人がいたかもしれません。せっかくの学び直しの機会ですから、問題が解けることだけに満足せず概念の理解を試みましょう。また、数学IIBと同時並行で学ぶことにより、新たな気づきが生まれることもあります。</p>   |       |      |    |     |
| 図書資料の活用                | <p>以下の書籍に関連事項が書いてありますので、興味関心のある生徒は触れてみてください。</p> <p>シュレーディングアの少女・松崎有理 浜村渚の計算ノート3・青柳碧人<br/>光秀の定理・垣根涼介</p>   |       |      |    |     |

授業の計画

| 学期 | 月  | 教材     | 内容             |
|----|----|--------|----------------|
| 1  | 4  | 適宜プリント | 数学Ⅰから適宜復習      |
|    | 5  |        | 中間考査<br>2次関数   |
|    | 6  |        |                |
| 2  | 7  |        | 期末考査           |
|    | 9  | 適宜プリント | 三角比            |
|    | 10 |        | 中間考査<br>データの分析 |
|    | 11 |        | 数学A 場合の数       |
| 3  | 12 |        | 期末考査           |
|    | 1  | 適宜プリント | 確率             |
|    | 2  |        | 図形の性質          |
|    | 3  |        |                |

2025年度

| 学年                        | 教科   | 科目 | コース  | 単位 | 担当者 |
|---------------------------|--|----|------|----|-----|
| 2                         | 理科   | 物理 | 進学理系 | 3  | 榎本  |
| 教科書                       | 物理基礎（物基703）実教出版 物理（物理702）実教出版  |    |      |    |     |
| 副教材                       | セミナー物理基礎＋物理（新課程版） 第一学習社  |    |      |    |     |
| 評価基準                      | <p>観点① 知識・技能<br/>                     単元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解できる。<br/>                     公式を使って、基本的な問題を解き、物理量を求めることができる。</p>  |    |      |    |     |
|                           | <p>観点② 思考力・判断力・表現力<br/>                     実験等によって得られた情報を整理・分析し、法則性や関係する物理量を求めることができる。また、得られた知識を使って応用的な課題を解決できる。</p>  |    |      |    |     |
|                           | <p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度<br/>                     授業や課題に真剣に取り組む、知識や思考力等の成長のために努力できる。<br/>                     また、学習した内容と日常生活との関わりなどについて調べたり考えることができる。</p>  |    |      |    |     |
| <p>考査・評価方法</p>            | <p>1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施<br/>                     上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。<br/>                     各学期、100点満点で表記する。<br/>                     1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20<br/>                     3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20</p> |    |      |    |     |
| <p>授業のねらい・進め方・学習アドバイス</p> | <p>物理を選択した人は、基本的には大学受験科目として物理を選択するであろうということを前提として、大学進学に向けて必要な最低限度の知識と技法を身につけることを目標として授業を行います。<br/>                     クラスの状況を見て、適宜進度を変更する可能性があります。</p>  |    |      |    |     |
| <p>図書資料の活用</p>            | <p>レポートの作成や、大学過去問の演習の際に活用する。</p>   |    |      |    |     |

授業の計画

| 学期 | 月 | 教材                             | 内容                            |                           |
|----|---|--------------------------------|-------------------------------|---------------------------|
| 1  | 4 | 物理基礎1章1節<br>運動の表し方             | 速度と加速度<br>等加速度運動と落体の運動        |                           |
|    | 5 | 物理1章1節 平面内の運動<br>物理基礎1章2節 力    | 放物運動<br>力のつりあいと作用反作用          |                           |
|    | 6 | 物理1章1節 剛体のつりあ                  | 剛体にはたらく力                      |                           |
|    | 7 | 物理基礎1章3節                       | 慣性の法則                         |                           |
|    | 7 | 運動の法則                          | 運動の法則と運動方程式の活用                |                           |
|    | 2 | 9                              | 物理基礎2章1節<br>運動とエネルギー          | 仕事と力学的エネルギー<br>力学的エネルギー保存 |
|    |   | 10                             | 物理1章2節 運動量の保存                 | 運動量と力積<br>運動量の保存          |
|    |   | 物理基礎2章1節<br>熱とエネルギー            | 衝突とエネルギー<br>熱と温度、熱と仕事         |                           |
|    |   | 物理1章5節                         | 比熱と熱容量                        |                           |
| 11 |   | 物理1章5節                         | 気体の状態方程式                      |                           |
| 12 |   | 気体分子の運動                        | 気体の内部エネルギー<br>気体の状態変化         |                           |
| 3  | 1 | 物理基礎3章1節 波の性質<br>物理2章1節 波の伝わり方 | 波の性質と波の表し方<br>重ね合わせの原理        |                           |
|    | 2 | 物理基礎3章2節 音<br>物理2章2節 音         | 音波と発音体の振動<br>音の伝わり方とドップラー効果   |                           |
|    | 3 | 物理2章3節光                        | 光の伝わり方とその性質<br>光の回折と干渉<br>レンズ |                           |

2025年度

| 学年                 | 教科   | 科目 | コース  | 単位 | 担当者 |
|--------------------|--|----|------|----|-----|
| 2                  | 理科   | 生物 | 進学理系 | 3  | 水庭  |
| 教科書                | 「生物基礎」「生物」第一学習社  |    |      |    |     |
| 副教材                | 「リード生物基礎」第一学習社、「セミナーノート生物」第一学習社<br>「スクエア最新図説生物」第一学習社   |    |      |    |     |
| 評価基準               | 観点① 知識・技能<br>教科書および図説の内容の十分な理解を目指す。  |    |      |    |     |
|                    | 観点② 思考力・判断力・表現力<br>内容の理解を目指す過程で、教科書以外の資料を多く取り入れる。  |    |      |    |     |
|                    | 観点③ 主体的に学習に取り組む態度<br>学習内容に関するレポートを作成する。<br>必要に応じて小テストを実施する。  |    |      |    |     |
| 考査・評価方法            | 1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施<br>上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。<br>各学期、100点満点で表記する。<br>1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20 |    |      |    |     |
| 授業のねらい・進め方・学習アドバイス | 学習者...学習項目の理解にどれほど自分自身の思考を巡らせたか?に注目する。<br>授業者...学習者の思考がより深いものになるように注力する。<br>進度・状況に応じて授業で取り扱う順番を変更する可能性がある。   |    |      |    |     |
| 図書資料の活用            | レポートの作成や入試過去問に取り組む際に活用する。  |    |      |    |     |

授業の計画

| 学期 | 月  | 教材                        |
|----|----|---------------------------|
| 1  | 4  | 教科書「生物基礎」<br>3章 ヒトのからだの調節 |
|    | 5  |                           |
|    | 6  | 4章 植生と遷移                  |
| 2  | 7  | 5章 生態系とその保全               |
|    | 9  | 教科書「生物」<br>1章 生物の進化       |
|    | 10 | 2章 生物の系統と進化               |
| 3  | 11 | 3章 細胞と分子                  |
|    | 12 |                           |
|    | 1  | 教科書「生物」<br>4章 代謝          |
|    | 2  |                           |
|    | 3  |                           |

内容

1節 情報の伝達と体内環境の維持

2節 免疫

1節 植生と遷移

2節 バイオーム

1節 生態系と生物の多様性

2節 生態系のバランスと保全

1. 生命の起源と細胞の進化

2. 遺伝子の変化と遺伝子の組み合わせの変化

3. 進化のしくみ

1. 生物の系統

2. 人類の系統と進化

1. 生体物質と細胞

2. タンパク質の構造と性質

3. 生命現象とタンパク質

1. 代謝とエネルギー

2. 炭酸同化

3. 異化

2025年度

| 学年                 | 教科  | 科目      | コース  | 単位           | 担当者   |
|--------------------|---|---------|------|--------------|-------|
| 2                  | 理科  | 化学基礎・化学 | 進学理系 | 化学基礎2<br>化学1 | 石田・筒井 |
| 教科書                | 実教出版 化学基礎academia・化学academia  |         |      |              |       |
| 副教材                | アクセスノート化学基礎・化学  |         |      |              |       |
| 評価基準               | <p>観点① 知識・技能<br/>化学的な事物・現象についての観察、実験などを行うことを通して、化学の基本的な概念や原理・法則を理解している。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。</p>   |         |      |              |       |
|                    | <p>観点② 思考力・判断力・表現力<br/>化学的な事物・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得している。報告書を作成したり、発表したりして、科学的に探究する力を身に付けている。</p>  |         |      |              |       |
|                    | <p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度<br/>化学的な事物・現象に対して、主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする。また、科学的に探究しようとする。</p>  |         |      |              |       |
|                    | <p>1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施<br/>上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。</p>   |         |      |              |       |
| 考査・評価方法            | <p>各学期、100点満点で表記する。<br/>1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20<br/>3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20</p>   |         |      |              |       |
| 授業のねらい・進め方・学習アドバイス | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業のすべてが授業者による内容の解説にならないように配慮する。</li> <li>知識の詰め込みではなく、日常生活でも論理的思考が出来るように促す。</li> <li>毎授業の終わりに、学習の自己調整についての考えを整理する時間をつくる。</li> </ul> <p>※授業中の教員の話は、重要なことが多いのでしっかり聞くこと。</p> |         |      |              |       |
| 図書資料の活用            | <p>理科学的な思考力を強化したい人は、以下の文献を参考にしてください。<br/>「科学的思考」のレッスン 学校で教えてくれないサイエンス<br/>戸田山和久</p>   |         |      |              |       |

授業の計画

| 学期 | 月            | 教材                                   | 内容  |
|----|--------------|--------------------------------------|---|
| 1  | 4            | 化学基礎2章                               | それぞれの化学結合の特徴と、その化学結合からなる物質とその性質を理解する。                               |
|    | 5            | 1節・2節 共有結合                           |   |
|    | 3節           | 金属結合                                 |   |
| 4節 | 化学結合と物質      |                                      |   |
| 1  |              | 化学基礎3章                               | 物質量の基本事項、物質量と溶液の濃度の関係を理解する。   |
|    | 1節           | 原子量と分子量・式量<br>物質量<br>溶液の濃度           |   |
|    | 6            | 化学反応式                                |   |
| 2  | 7            | 2節 酸と塩基                              | 代表的な物質の化学反応を化学反応式で表現できるようにし、その量的関係について考察する。また酸と塩基の基本事項について理解する。     |
|    |              | 水素イオン濃度とpH                           |   |
| 2  | 9            | 中和反応と塩の生成                            | 中和反応について理解し、関与する物質について考察する。   |
|    | 10           | 中和滴定                                 |   |
|    | 3節           | 酸化と還元<br>酸化剤と還元剤                     | 酸化と還元の定義などの基本事項、酸化剤と還元剤の反応などについて理解する。                               |
|    | 11           | 酸化還元反応の起こりやすさ                        |   |
| 12 | 身のまわりの酸化還元反応 | 酸化還元反応と日常生活・社会生活とのかかわり、実用電池について理解する。 |   |
| 2  |              | 化学1章                                 | 状態と平衡、粒子の熱運動について理解する。   |
|    | 1節           | 状態変化                                 |   |
| 3  | 1            | 2節 固体の構造                             | 結晶構造について、基本的な知識を身につける。<br>ボイル・シャルル、気体の状態方程式を理解する。<br>溶液の性質について理解する。 |
|    | 2            | 3節 気体の性質                             |   |
|    | 3            | 4節 溶液                                |   |

---

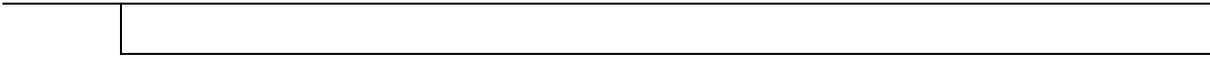
|  |  |  |  |
|--|--|--|--|
|  |  |  |  |
|--|--|--|--|

2025年度

| 学年                 | 教科   | 科目    | コース   | 単位 | 担当者          |
|--------------------|--|-------|-------|----|--------------|
| 2                  | 外国語  | CE II | 進学クラス | 4  | 井、太田、草地、濱井、藤 |
| 教科書                | FLEX English communicationII   |       |       |    |              |
| 副教材                | FLEX English communicationII workbook, 英単語Target1400, レンピー   |       |       |    |              |
| 評価基準               | <p>観点① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書・副教材で扱った事項を正確にマスターできている</li> </ul>  |       |       |    |              |
|                    | <p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①で習得したものをベースに、応用問題が解けている</li> </ul>  |       |       |    |              |
|                    | <p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業内のオーラル活動、レンピー、音読テスト、ネイティブ教員による活動に取り組んでいる</li> </ul>  |       |       |    |              |
| 考査・評価方法            | <p>1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施<br/>上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。</p> <p>各学期、100点満点で表記する。</p> <p>1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20<br/>3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20</p>                               |       |       |    |              |
| 授業のねらい・進め方・学習アドバイス | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業内の活動を通して、英語の4技能 (Listening, Reading, Writing, Speaking) を総合的に育成する。具体的には①語彙強化→②リスニングによる内容把握→③チャンクを意識した読解→④精読→⑤音読(→⑥ディクテーション)</li> <li>各レッスン、音読テストを行う。</li> <li>基本的にiPad / schoolTaktを使用して授業を行う。</li> </ul> |       |       |    |              |
| 図書資料の活用            |  |       |       |    |              |

授業の計画

| 学期 | 月  | 教材                           | 内容                         |
|----|----|------------------------------|----------------------------|
| 1  | 4  | FLEX English communicationII | Lesson1                    |
|    | 5  |                              | Lesson2                    |
|    | 6  |                              | Lesson3                    |
|    | 7  |                              | Lesson4                    |
|    |    |                              | ※週に1回、ネイティブ教員によるアクティビティを実施 |
| 2  | 9  |                              | Lesson5                    |
|    | 10 |                              | Lesson6                    |
|    | 11 |                              | Lesson7                    |
|    | 12 |                              | Lesson8                    |
| 3  | 1  |                              | Lesson9                    |
|    | 2  |                              | Lesson10                   |
|    | 3  |                              |                            |



2025年度

| 学年             | 教科   | 科目      | コース | 単位 | 担当者      |
|----------------|--|---------|-----|----|----------|
| 2              | 外国語  | 論理・表現II |     | 3  | 井原・伊藤・鳥海 |
| 教科書            | FACTBOOK English Logic and Expression II (桐原書店)  |         |     |    |          |
| 副教材            | 英文法入門10題ドリル (駿台文庫)<br>わからないをわかるにかえる英検準2級 (文理)  |         |     |    |          |
| 評価基準           | 観点① 知識・技能<br>*教科書・副教材で扱った事項を正確にマスターできている   |         |     |    |          |
|                | 観点② 思考力・判断力・表現力<br>*①で習得したものをベースに、英検レベルの英文が書けている   |         |     |    |          |
|                | 観点③ 主体的に学習に取り組む態度<br>*授業内のアウトプット活動に参加できている<br>*授業で扱えなかった範囲の問題等を、自分で取り組んでいる   |         |     |    |          |
| 考查             | 1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施<br>上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。  |         |     |    |          |
| 評価             | 各学期、100点満点で表記する。<br>1・2学期: 観点①(中間50+期末50)x40% + 観点②(中間50+期末50)x40% + 観点③ 20<br>3学期: 観点①学年末50x80% + 観点②学年末50x80% + 観点③ 20 |         |     |    |          |
| テスト・評価の内訳      | 観点① ・空所補充<br>・部分和訳・英訳<br>・会話組み立て   |         |     |    |          |
|                | 観点② ・教科書ベースの総合問題<br>・パラグラフライティング   |         |     |    |          |
|                | 観点③ ・小テストの実施状況   |         |     |    |          |
| 授業のねらい・進め方・注意点 | 小テストで各講の復習をすることで、文法や表現の知識の定着を図る。<br>整序問題を通して文構造を理解し、英検ライティングに対応できる表現力を身につける。   |         |     |    |          |
| 図書資料の活用        |  |         |     |    |          |

授業の計画

| 学期 | 月  | 教材          | 内容  |
|----|----|-------------|---|
| 1  | 4  | 第1～6講       | 第1文型(SV) SVO to (V)原形   |
|    | 5  |             | 第2文型(SVC)<br>第3文型(SVO)<br>第4文型(SVOO)<br>第5文型(SVOC)            |
|    |    | 中間考査        |   |
|    | 6  | 第7・8、12～14講 | SVO(V)ing SVO原形<br>不定詞 (名詞的用法)<br>不定詞 (形容詞的用法)<br>不定詞 (副詞的用法) |
|    | 7  | 期末考査        |   |
| 2  | 9  | 第16～21講     | 動名詞<br>分詞の形容詞的用法<br>分詞構文①②<br>名詞節①②                           |
|    | 10 | 中間考査        |   |
|    |    | 第23～29講     | 関係詞節①②③④⑤<br>副詞節<br>比較①                                       |
|    | 11 |             |   |
|    | 12 | 期末考査        |   |
| 3  | 1  | 第30～36講     | 比較②③<br>時制<br>完了形<br>助動詞<br>仮定法<br>強調・否定                      |
|    | 2  |             |   |
|    | 3  | 学年末考査       |   |

2025年度

| 学年             | 教科   | 科目   | コース  | 単位 | 担当者   |
|----------------|--|------|------|----|-------|
| 2              | 芸術   | 音楽II | 進学理系 | 1  | 溝口 佳洋 |
| 教科書            | MOUSA2 (教育芸術社)   |      |      |    |       |
| 副教材            | なし   |      |      |    |       |
| 評価基準           | <b>観点① 知識・技能</b><br>【知識】<br>・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。<br>【技能】<br>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。<br>・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。(歌唱)<br>・他者との調和を意識して演奏する技能を身に付けている。(器楽)<br>・反復、変化などの手法を活用して音楽をつくる技能を身に付けている。(創作) |      |      |    |       |
|                | <b>観点② 思考力・判断力・表現力</b><br>・音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚している。<br>・それらの働きを感受しながら、知覚した事と感受したこととの関わりについて考えている。<br>・どのように表すかについて独自の表現意図をもっている。<br>・音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聞いたりしている。  |      |      |    |       |
|                | <b>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</b><br>・主体的、協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。   |      |      |    |       |
| 評価             | (3観点の比率と算出法)<br>観点①50% 観点②20% 観点③30%   |      |      |    |       |
| テスト・評価の内訳      | <b>観点①</b><br>・実技テスト (25点)<br>・作品提出 (25点)<br>※内訳は学期によって変動する可能性あり   |      |      |    |       |
|                | <b>観点②</b><br>・振り返りシート (10点)<br>・鑑賞シート (10点)<br>※内訳は学期によって変動する可能性あり  |      |      |    |       |
|                | <b>観点③</b><br>・授業態度や他者との協働 (15点)<br>・自己評価シート等 (15点)<br>※内訳は学期によって変動する可能性あり   |      |      |    |       |
| 授業のねらい・進め方・注意点 | ・集団で活動する内容もあるため、一人ひとりの協力的な雰囲気づくりが重要。<br>・作品提出や演奏の練習では、自らを分析的に客観視し、こだわりを持って追及する。<br>・文化祭での発表を経て、「達成感」が得られるように活動していく。  |      |      |    |       |
| 図書資料の活用        | 学期ごとにしるしレポート課題の作成で、図書室の資料を活用する。  |      |      |    |       |

授業の計画

| 学期 | 月   | 教材      | 内容                                       |
|----|-----|---------|--|
| 1  | 4   | プリント    | 歌唱 「校歌」「生徒歌」                             |
|    | 5・6 | iPadアプリ | Garageband作曲<br><br>・入力練習・聴音<br>・メロディー作り |
|    | 7   | iPadアプリ | Garageband作品提出                           |
| 2  | 9   | iPadアプリ | 文化際準備<br>Garageband作曲                    |
|    | 10  | プリント    | 鑑賞 「ピアノの森」(予定)<br>レポート提出                 |
|    | 11  | プリント    | ミュージックベル練習<br><br>ミュージックベル発表             |
| 3  | 1   | プリント    | 合奏 パート決め<br>譜読み・練習                       |
|    | 2   |         | 合奏の完成、動画提出                               |



2025年度

| 学年             | 教科  | 科目  | コース | 単位 | 担当者  |
|----------------|---|-----|-----|----|------|
| 2              | 芸術科   | 書道Ⅱ |     | 1  | 佐藤敦子 |
| 教科書            | 書道Ⅱ・教育出版  |     |     |    |      |
| 副教材            |   |     |     |    |      |
| 評価基準           | <b>観点① 知識・技能</b><br>書の表現の方法や形式，多様性などについて幅広く理解するとともに，書写能力の向上を図り，書の伝統に基づき，効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。   |     |     |    |      |
|                | <b>観点② 思考力・判断力・表現力</b><br>書よさや美しさを感じ，意図に基づいて構想し表現を工夫したり，作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。  |     |     |    |      |
|                | <b>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</b><br>主体的に書の幅広い活動に取り組み，主体的に書の幅広い活動に取り組み，生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，書の伝統と文化に親しみ，書を通して心豊かな生活や社会を創出して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。   |     |     |    |      |
| 評価             | 各学期、100点満点で表記する。<br>(3観点の比率と算出法)<br>観点①50% 観点②20% 観点③30%  |     |     |    |      |
| テスト・評価の内訳      | <b>観点① 作品評価40点</b><br>鑑賞文 書道史学習 書風の比較 10点   |     |     |    |      |
|                | <b>観点② レポート・理論テスト 10点</b><br>観点の書き込み 工夫 及びグループ学習 10点  |     |     |    |      |
|                | <b>観点③ 課題提出状況 10点</b><br>授業態度（作品レベル向上、グループ学習への取り組み）15点 自己評価5点   |     |     |    |      |
| 授業のねらい・進め方・注意点 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・素直に柔軟に自分の身に取り入れるつもりで学習し、充実した時間にする。</li> <li>・良い作品に対するこだわりを捨てない。</li> <li>・作品制作の雰囲気作りに心がける。</li> <li>・大東文化大学主催全国書道展への出品。</li> <li>・文化祭への出品。</li> </ul> |     |     |    |      |
| 図書資料の活用        | レポート課題に参考文献として図書室にある書籍を活用する。  |     |     |    |      |

授業の計画

| 学期 | 月  | 教材              | 内容                                      |
|----|----|-----------------|---|
| 1  | 4  | ガイダンス<br>教科書p4～ | 篆書の学習<br>石鼓文                            |
|    | 5  | 教科書p20～         | 隷書の学習<br>乙瑛碑                            |
|    | 6  | 創作              | 居延漢簡<br>書道展出品用作品制作<br>文化祭作品制作           |
|    |    |                 | レポート課題                                  |
| 2  | 9  | 教科書p30～         | 草書の学習<br>書譜                             |
|    | 10 | 教科書p36～         | 行書の学習<br>集王聖教序<br>争坐位稿<br>楷書の学習<br>孟法師碑 |
|    | 11 | 創作              |   |
|    |    |                 | レポート課題                                  |
| 3  | 1  | 教科書p58～         | 仮名の学習<br>高野切第一種                         |
|    | 2  | 創作<br>教科書p80～   | 漢字仮名交じりの書の学習                            |
|    |    |                 | テスト                                     |

2025年度

| 学年             | 教科  | 科目   | コース  | 単位 | 担当者 |
|----------------|---|------|------|----|-----|
| 2              | 芸術  | 美術II | 進学理系 | 1  | 小西  |
| 教科書            | 高校生の美術2（日本文教出版）   |      |      |    |     |
| 副教材            | なし  |      |      |    |     |
| 評価基準           | <p>観点① 知識・技能</p> <p>知識：造形要素の働きの理解、イメージや作風、様式などでとらえることの理解</p> <p>技能：材料や用具を生かす技能、創造的に表す技能/創造的に思考・判断・表現するための言語を使用する基礎的な技能</p>          |      |      |    |     |
|                | <p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <p>主題の生成、発想、創造的な表現を構想する能力/創意工夫を思考し取舍選択する能力（制作）</p> <p>造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働き、美術文化などについて考え、伝える能力（鑑賞）</p> |      |      |    |     |
|                | <p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>主体的に美術の幅広い活動に取り組む態度</p>   |      |      |    |     |
| 考査             | なし  |      |      |    |     |
| 評価             | 各学期、100点満点で表記する。  |      |      |    |     |
| テスト・評価の内訳      | <p>観点① 知識・技能（50点）</p> <p>小テスト5点、美術の基礎的な言語技能5点、作品40点</p>   |      |      |    |     |
|                | <p>観点② 思考力・判断力・表現力（20点）</p> <p>構想メモ、制作中の振り返りWS（ワークシート）、鑑賞WS</p> <p>（学期によって実施状況が異なるので、取り組んだ時間や労力を考慮して点を配分。）</p>                      |      |      |    |     |
|                | <p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>提出物10点、積極性10点、制作前の鑑賞WS&amp;制作終了後の振り返りWS10点</p>  |      |      |    |     |
| 授業のねらい・進め方・注意点 | 美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成する。  |      |      |    |     |
| 図書資料の活用        | 授業中に図書室資料を紹介する。   |      |      |    |     |

授業の計画

| 学期 | 月      | 教材                                 | 内容                            |
|----|--------|------------------------------------|-------------------------------|
| 1  | 4      | 教科書、WS（ワークシート）                     | シュルレアリスム絵画の鑑賞                 |
|    | 5<br>6 | 構想用WS<br>アクリルガッシュ、メディウム、油彩用具など     | シュルレアリスム絵画の制作                 |
|    |        | WS                                 | 生徒作品の鑑賞、振り返り                  |
| 2  | 9      | 教科書、WS                             | デザインとは何かを学ぶ（鑑賞）               |
|    | 10     | 構想用WS                              | 生活を良くするためのデザインを構想する           |
|    | 11     | ケント紙を使用、もしくはibisPaintを使用<br><br>WS | ポスターにまとめる<br><br>生徒作品の鑑賞、振り返り |
| 3  | 1      | 教科書、WS                             | 水墨画の鑑賞                        |
|    | 2      | 墨など<br><br>WS                      | 水墨画の制作<br><br>生徒作品の鑑賞、振り返り    |

## 二年次 総合的な探究の時間 シラバス

|       |   |
|-------|---|
| 活動の指針 | 二年次では、共通のテーマに基づいたフィールドワークを実施する。<br>また、フィールドワークの振り返りを兼ねて、特定分野の学問研究を行う。<br>個人でテーマを設定し個人での探究を行い、3学期に発表会を実施する。<br>一学期 防災をテーマとして、フィールドワーク・学問研究を行う。<br>二学期① 沖縄をテーマとして、ミニ探究を行う。<br>二学期② 個人でテーマを設定し個人探究を行う。<br>三学期 探究成果発表会に向けて個人探究を進める。 |
| 教材教具  | <input type="checkbox"/> iPad (Classroomの連絡が確認できる端末)<br><input type="checkbox"/> マイナビテキスト「locus Program」<br><input type="checkbox"/> ルーブリック表<br><input type="checkbox"/> その他必要に応じて書籍など資料を紹介、配布する。                               |
| 一学期   | フィールドワーク・学問研究を行う。<br>授業の流れ (概要)<br>1. 防災新聞の紹介・発表<br>2. 防災のための地方自治体の取り組みを学ぶ<br>3. フィールドワークの準備・計画・発表<br>4. フィールドワーク<br>5. フィールドワークの振り返り<br>6. サプライチェーンについて学ぶ  |
| 夏休み   | 一学期の振り返りと二学期の準備   |
| 二学期   | 前半 沖縄をテーマにしたミニ探究 (1. 2. 3.)<br>後半 個人で設定したテーマに基づく探究 (4. 5.)<br>授業の流れ (概要)<br>1. 夏休みの課題についてグループ内で発表<br>2. 沖縄をテーマにしたミニ探究<br>3. ミニ探究成果発表<br>4. 個人のテーマ設定、ゼミ分け<br>5. 個人探究<br>【沖縄修学旅行】沖縄ミニ探究に基づくフィールドワーク                               |

|     |  |
|-----|--|
| 三学期 | 個人探究を進めて学年末の探究成果発表会の準備を進める。<br>授業の流れ (概要)<br>1. 個人の探究を進める。<br>2. ゼミ内での発表・振り返りを行う。<br>3. 学期末に探究成果発表会を行う。<br>【探究成果発表会について】<br>中間発表という位置づけで行う。<br>中間発表を踏まえて三年次一学期に再度取り組む。 |
|-----|--|

| 注意 |   |
|----|---|
| 基本 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・校外学習・修学旅行をフィールドワークとして位置付ける。</li> <li>・探究の目的を理解した上で毎回の活動を行う。</li> <li>・校外学習や修学旅行を通じて、事前に調べたことや学んだことを現地での活動に活かす。</li> <li>・ルーブリックを意識した行動を心がける。</li> <li>・調べ学習、考察、体験から得られた内容、アウトプットを意識した成果物を作成する。</li> </ul> |

| グループ学習における「協働的に学ぶ」とは？  |   |
|--|---|
| ※二年次は個人での探究の機会が増えるが、発表などを通じた「協働的に学ぶ」機会があるので、その際には①～⑦を実践できるように心がける。<br>①クラス内で、複数名のグループに分かれて行動する。<br>②協働的に学ぶ際の注意事項や評価指標を全員で確認しておく。<br>③話し手は〇〇分で意見主張→聞き手は、話し手の意見に乗って+αのアイデアを出す。<br>④グループ内で③を時間の許す限り繰り返す。<br>⑤会話が倦んで、途切れてしまったときに、はじめて端末や図書で予備知識を補う。<br>⑥予備知識を補う際は、「誰が何をどの程度調べるのか」を計画してから実行する。<br>⑦予備知識を仕入れた上で、また③～⑥を繰り返していく。 |   |
| 注意事項   | 評価指標  |
| 個々の発言量・機会を均等にする。<br>人の意見に乗ってばかり...はやめる。<br>人に指示してやらせてばかり...はやめる。<br>会話の流れを記録し、遡れるようにする。  | 協働的に学ぶ意義は「物事を多面的に視る」という点である。様々な側面からの情報や異論などを集め、整理できれば、よいチームだと評価される。 |